訪日教育旅行のコーディネーター

千葉県商工労働部観光誘致促進課

海外で誘致プロモーション

千葉県商工労働部観光誘致促進課では、訪日教育旅行の誘致に取り組んでいる。若い世代の国際理解推進による教育的効果や、県内各地への直接的な経済波及効果と地域活性化、海外における県のプレゼンスの向上などを目的としたものだ。

主な事業として、海外での教育旅行誘致プロモーション（現地での説明会、商談会への参加）や、海外の教育関係者、取り扱い旅行会社などを招請した県内ファムトリップ、JNTO事業との連携による国内の説明会でのプロモーションなどを実施。訪日教育旅行関連の資料整備や受け入れ学校・地域の拡大のための理解促進啓発活動にも取り組んでいる。

学校間交流の促進に関しては、ホームステイなど地域生活文化体験のコーディネートを実施するほか、海外の教育関係組織、訪日教育旅行取り扱いエージェントとのネットワーク構築にも携わる。成田空港での出迎えや交流、ホームステイでの現場対応など各種のサポートも行っている。

訪日教育旅行の受け入れ実績は、2014年度が19校（台湾14校、マレーシア4校、中国1校）、15年度が29校（台湾22校、マレーシア5校、タイ1校、中国1校）、16年度が37校（台湾29校、マレーシア6校、中国1校、香港1校）、17年度が50校（台湾36校、マレーシア・中国各4校、韓国2校、米・豪・タイ・香港各1校）と年々増えている。

観光誘致促進課は「将来の社会を担う若者にとって国際交流の機会は貴重な体験だ。地域活性化の一つの手法としても意義がある」（副参事・小林拓郎氏）として、今後も台湾、マレーシアを軸に多くの国からの受け入れを推進していく考えだ。

旅行誘致パンフレットの英語版（上）と繁体字版

台湾での説明会

大阪観光局

円滑な学校交流を推進

海外の学校や教育関係者の訪日教育旅行で大阪の受け入れ校をマッチングし、大阪での学校交流や教育視察のコーディネートをしている大阪観光局。海外の学校から大阪府教育庁や大阪市教育委員会などに届く依頼についてもコーディネートを行っている。

大阪観光局の教育旅行コーディネーター、牧野輝彦氏は「訪日教育旅行の誘致は観光の観点から将来のリピーター確保が重要な意義を持つ。学校交流は教育的意義として青少年の国際的視野の拡大を促すとともに、青少年同士の熱い交流が相互の友好を結び、国際親善に大きな役割を果たしている」と意義を語る。

大阪観光局では、学校交流の依頼が増え始めた2006年度から、教育現場を熟知する校長OBによるコーディネーターを置いて、円滑な学校交流を推進している。学校交流のフルサポートによって、依頼者と受け入れ校の信頼を得るよう努力している。

交流の依頼が寄せられると、希望内容を把握し、マッチする受け入れ校を探す。高校や私立の学校には直接校長に連絡を取り、公立の小中学校には市町村教育委員会に連絡を取って調整する。

受け入れが決まった学校に対しては、訪問校との交流内容などについて綿密な打ち合わせを実施。初めて海外からの学校と交流する学校には、これまでの経験を元にさまざまなアドバイスも行う。交流日には付き添いのサポートをしている。

大阪観光局は、歓迎式で使用する記念品や大阪グッズの提供、交流費の現金補助も行っている。

大阪では訪日教育旅行が急増。18年度は地震や台風の影響による中止もあったが昨年度より22団体増え、過去最高の219団体を受け入れた。今後もこの傾向は続き、特に小学生など若年層の訪日教育旅行の増加が見込まれる。

「海外からの教育旅行は将来を担う若者たちの国際性育成に大きな契機となる。大阪では海外からの教育旅行の受け入れを積極的に行っていく」（牧野氏）。

インドの高校生との交流

台湾の中学生と住吉大社で交流

訪日教育旅行の受け入れによる国際交流を進める高等学校

東京都立杉並高等学校

グローバル人材を育成

国際社会に通用する人材の育成に努めてきた東京都立杉並高等学校（東京都杉並区）は、その教育方針をさらに強め、昨年度から目指す学校像の第一に「豊かな国際感覚を備えたグローバル人材の育成」を掲げた。東京都教育委員会から「国際交流リーディング校」にも指定されている。

グローバル人材の育成を目的として、イングリッシュキャンプや海外での語学研修・修学旅行、英語検定の全員受験などを行うが、訪日教育旅行の受け入れによる国際交流にも積極的だ。2015年4月に台湾の台中市立台中家事商業高級中学校の生徒30人を迎えたのが最初。以後、17年4月に同校の生徒20人、9月にニュージーランドのハットバレーハイスクールの生徒13人、18年7月にアメリカ合衆国中西部の高校生15人、12月にニュージーランドのダーガビルハイスクールの生徒11人とカナダの高校生2人を受け入れた。

金澤利明校長は「これからのグローバル化社会では、いろいろな国の人が否応なく日本に来るし、仕事で海外にも行かなければいけない。高校段階で視野を広げていろいろな人たちとの出会いを経験することが必要だ」と語る。

受け入れでは杉並高校の生徒は、授業、部活動や書道、茶道など日本文化を体験する留学生と英語を使ってコミュニケーションを図る。交流会も開かれるほか、留学生が生徒の家に泊まるホームステイも行われている。

留学生との交流を通じて生きた英語を生徒に学ばせるのが狙いではあるが、「正確な英語を話すことよりも、外国人に物おじせず、積極的に話そう、あるいは、話せないけれども何とかしようという生徒の気持ちを作りたい」と羽生英雄副校長は真意を明かす。

今年は4月16日から22日までハットバレーハイスクールの生徒25人を受け入れる予定だ。

台湾台中家事高中、来校時の風景。現代っ子らしくスマホで自撮り（2017年4月）

カナダの高校生が書道体験（2018年12月）

立命館守山高等学校

次世代を国際的に牽引

立命館守山高等学校（滋賀県守山市、寺田佳司校長）は、2006年に立命館学園の附属学校として開校。スーパーサイエンスハイスクールとして探求型の学習を進めてきた。近年はグローバル教育にも注力。併設の中学校と共に、科学的思考を持ち次世代を国際的に牽引する「グローバルサイエンスリーダー」の育成を目標に掲げる。

同校のグローバル教育は、ユネスコスクールとしてSDGs（持続可能な開発目標）などの国際課題に取り組んだり、日本と台湾で開催される英語プレゼンテーション大会に台湾の姉妹校と合同チームで出場したりするなど、世界で多様な人々と協働できる力をつけることを目指している。日本を訪れる学校との交流にも積極的で、毎年5～10校程度を受け入れる。2018年度は姉妹校のほか、「びわこビジターズビューロー」からの依頼などにより、マレーシアやポーランドの学校と交流活動を行った。

来校した海外の学生とは主に英語などの授業や部活動の時間に交流する。さらに各クラスに1人いる国際交流委員を中心に、歓迎式を行ったり一緒に福笑いなどのゲームをしたりするなど、生徒が主体となって相互交流の深化を図っている。交流活動により生徒たちは、日本にいながらにして、世界の国々への興味関心や英語習得へのモチベーションを高める。そして交流活動で培われた異文化への眼差しやコミュニケーション力は、2年生の終わりに世界8都市に分かれてインターンシップなどを行う体験型研修での積極的な研修姿勢につながっている。

「今後は海外の高校生と共に、試行錯誤しながらモノを作ったりする機会を増やしたい」と寺田校長。19年度からは新たにグローバルコースを新設して、国や言語の垣根を越えて世界の人と力を生かし合える人材の育成を進める考えだ。

ポーランドの学生と一緒に英語の授業を受ける

マレーシアの学校との茶道体験を通した交流

教育旅行で重点を置いた活動

トップは「歴史学習」

日修協「データブック2018」から

日本修学旅行協会（竹内秀一理事長）は、中学校、高等学校の国内修学旅行と海外、訪日の教育旅行の実態をまとめた教育旅行年報「データブック2018」を昨年12月1日に発行した。その17年度調査データ「国内修学旅行の実態とまとめ　中学・高等学校」から「重点を置いた活動」を抜粋して紹介する。

修学旅行で重点を置いた学習や体験を分類した分類別件数・比率を見ると、「歴史学習」が73・4件（30・8％）で最も多く、次いで「平和学習」が429件（18・0％）、「スポーツ体験」が361件（15・1％）で、この3分野で全体の63・9％となっている。

重点を置いた学習や体験の具体的な活動内容を三つまであげてもらったものが左の表である。1位「遺跡、史跡、文化財、寺社などの見学」と2位「平和学習」が3年間変わらず、「伝統的町並み見学」「スキー、スノーボード」「自然・野外活動体験」「マリンスポーツ」が毎回上位にきているが、その他内容は多岐にわたっており、各学校が実態に応じてさまざまに重点を置いた活動を実施していることがうかがわれる。

かつて重点を置いた活動であった「博物館などの見学」や「美術館などの見学」（2010年度は共に2位）が、ここ数年で大きく順位が下がっており、それに対して「いなか暮らし体験」「産業遺産の見学」や「その他のスポーツ（ラフティング、カヌー）」などが上位に上がってきている。「職場訪問、職場体験」「学校見学（大学、専門学校など）」など進路やキャリア教育に重点に置く学校も多くある。前々回から「防災・震災学習」を項目にあげたが今回16位、45件であった。

重点を置いた活動の回答構成比

（単位：件、％）

順位 今回	前回	前々回	活動内容	国立	公立	私立	全体	構成比
1	1	1	遺跡、史跡、文化財、寺社などの見学	2	309	164	475	19.9
2	2	2	平和学習	3	270	156	429	18.0
3	4	5	スキー（スノーボード、スノーシューなど含む）	0	114	52	166	7.0
4	5	3	自然や野外活動体験（無人島体験、洞窟体験など含む）	3	93	56	152	6.4
5	3	5	伝統的町並みや建造物群保存地区の見学	0	93	39	132	5.5
6	5	4	マリンスポーツ（ダイビング、シュノーケリングなどを含む）	1	89	37	127	5.3
7	10	8	職場訪問、職場体験	0	74	17	91	3.8
8	7	13	いなか暮らし体験	0	59	20	79	3.3
9	11	7	伝統文化、伝統芸能や祭り体験（香道、舞妓、着付け、三味線、ペーロン、エイサーなど含む）	0	43	30	73	3.1
10	8	12	産業や産業遺産の見学	1	47	21	69	2.9
11	9	10	その他のスポーツ（ラフティング、カヌー、熱気球、トレッキング、乗馬など含む）	1	42	25	68	2.9
12	13	10	学校見学（大学、専門学校など）	0	44	21	65	2.7
13	12	9	博物館などの見学	0	35	23	58	2.4
14	18	16	環境学習体験	0	28	29	57	2.4
15	14	18	ミュージカル、演劇などの鑑賞	0	37	12	49	2.1
16	14	15	防災・震災学習	0	39	6	45	1.9
17	16	14	伝統工芸などものづくり体験	0	19	23	42	1.8
18	17	17	宗教体験（座禅、法話、写経など）	0	17	10	27	1.1
19	19	19	農業	1	19	6	26	1.1
20	20	23	歌舞伎、文楽、能楽などの鑑賞	0	16	8	24	1.0
21	23	22	国際交流（外国人、留学生との交流）	0	7	12	19	0.8
22	21	21	料理・食品加工体験	0	14	3	17	0.7
23	22	20	美術館などの見学	0	8	6	14	0.6
24	24	26	販売・商業体験	0	7	2	9	0.4
24	26	24	漁業（釣り含む）	0	7	2	9	0.4
26	30	27	ボランティア体験（具体的内容）	0	5	0	5	0.2
27	24	24	酪農	0	2	2	4	0.2
28	27	28	コンサート、音楽の鑑賞	0	1	0	1	0.0
28	27	－	林業	0	0	1	1	0.0
－	27	－	介護福祉体験	0	0	0	0	0.0
			その他	1	38	13	52	2.2
			合　計	13	1,576	796	2,385	100.0

※複数回答可（ただし三つまで）
※その他には「クラス別活動」や「調査研究」「自主研修」「社会体験」などが含まれる